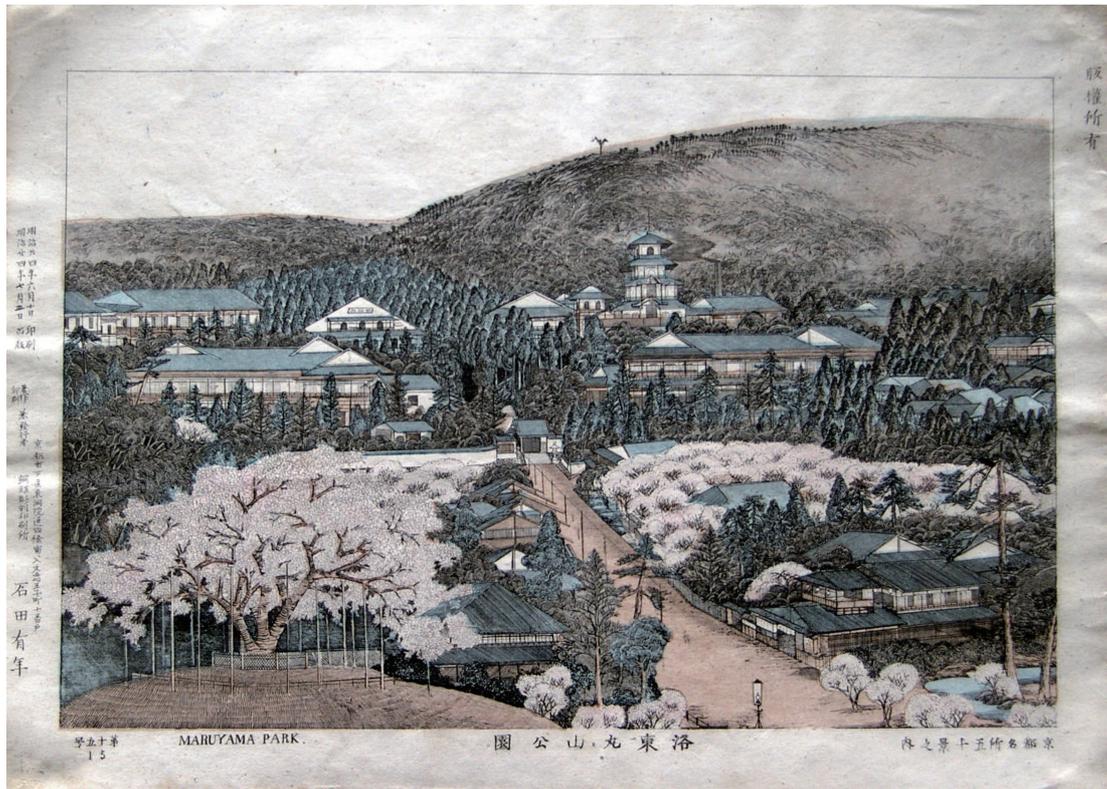


# 総合資料館だより

2012. 4. 1 No. 171

## 「京都名所五十景」



京都名所五十景第15号（洛東丸山公園）

桜の名所、円山公園は、明治19(1886)年に誕生した京都市内で最も古い公園です。江戸時代以前は安養寺の敷地で、寺号の慈円山を略して円山と呼ばれていたことが名称の由来となりました。

この『京都名所五十景』は、明治期に活躍した銅版画師、石田有年の作品で、明治28年の第4回内国勸業博覧会に出品されたものです。

画面右上の三層の楼閣をもつ建物は、殖産興業に尽力した明石博高が明治6年に開設した吉水温泉で、その前に建ち並んでいる建物は、京都で最初の洋風ホテルである也阿弥ホテルです。也阿弥は、六阿弥坊と呼ばれた安養寺の6つの塔頭のひとつで、これらの塔頭は、江戸時代には旅館や料亭を営んでいましたが、文明開化の波に乗り、長崎県人の井上万吉が元の旅館を洋風ホテルに改装して明治12年に開業したものです。しかしこのホテルは、明治32、39年の二度の火災により姿を消します。

円山公園はその後、小川治兵衛により日本庭園が整備され、現在の姿になりました。なお、ここに描かれている枝垂桜は、昭和22(1947)年に枯死し、現在は2代目の枝垂桜が花見客を楽しませています。

目次	「京都名所五十景」	1
	文献課の窓から「貴重な旧分類図書の電子目録化を進めています」	2
	歴史資料課の窓から「「四天王寺印」一矢野家写真資料から」	3
	最近の収集資料から（平成23年12月～24年2月）	4
	新資料館と国際京都学センター	6
	平成24年度事業計画、日誌、友の会事務局から 利用案内	8

文献課の窓から

## 貴重な旧分類図書の 電子目録化を進めています

当館では、現在、35万冊あまりの図書を所蔵し、皆さんにご利用いただいておりますが、この中に、京都府立図書館から引き継いだ「旧分類」と呼んでいる約7万冊の蔵書があることは、以前にもこの稿（総合資料館だよりNo.147（2006.4.1）参照、以下同じ）でご紹介したとおりです。

これらの「旧分類」図書には、「平家物語」（総合資料館だよりNo.163（2010.4.1））や「史記」といった歴史書、「京童」や「京雀」、「都名所図会」などの京都に関する名所案内（総合資料館だよりNo.143（2005.4.1））、直江兼統が刊行した「六臣註文選」を始めとする古活字版（総合資料館だよりNo.162（2010.1.1））など、和漢の稀少な図書が含まれており、多くの研究者の方々が利用されています。

当館ではこれらの図書を、次のように区分し管理しています。

- 「和」和装本。主として江戸時代以前の袋綴じ等によって装丁された和漢書等
- 「洋」洋装本。近代の製本技術で装丁された図書
- 「特」特別書。「和」「洋」のうち稀少価値の高いものや高価な図書
- 「貴重書」慶長年間以前に印刷又は書写されたものなど当館の定める一定の基準を満たした貴重な図書

当館のほとんどの図書は、蔵書検索端末OPACで検索することができますが、旧分類の図書は、貴重書4,000冊あまりが検索できるとどまっていました。これは、和漢の古典籍特有の情報（装訂や表紙、外題や内題、奥書、蔵書印、付箋などから読み取れる情報、写本や刊本の状況など）を調査・分析した上で、電子目録データの入力規則に従って整理・登録する作業に多大な知識と労力を要するためでした。

このため、平成22年度から緊急雇用対策基金事業を活用し旧分類図書の電子目録化を進め、この2年間で「特」の全冊約29,000冊と「和」約1,500冊が完了しました。

この電子目録化により、古典籍情報からの検索が簡単にできるようになりました。

例えば、「大蔵経」という仏教經典の叢書がありますが、当館では、黄檗宗の僧鉄眼が寛文延宝年間（1661～1681年）に出版した「鉄眼版」の版本2,065冊を「特」に分類し所蔵しています。この中に含まれる經典を利用したい場合、カード目録には「大蔵経」という書名しか記載されていないため、別の図書を参考にしながら現物を探しだしていただきました。電子目録を利用すれば「經典名」はもちろん、その途中の文字からでも検索することができ、該当する冊をすぐに特定することが可能になりました。

また、和漢書で重視される情報に「蔵書印」があります。蔵書印は、図書がどのような所蔵者に所有され、どういう経緯で伝来してきたかを探る手がかりとなるだけでなく、その意匠に所蔵者の人柄や趣味が表れる興味深いもので、当館でも以前に詳細な調査を行っています。（資料館紀要第七号（S54.3）、第九号（S56.3）、第十二号（S59.3）、第十三号（S60.3））

例えば、弘化4（1847）年から明治元（1868）年まで御所の東に開講し、公家の子弟教育機関として大きな足跡を残した旧学習院が所蔵していた蔵書には、「学習院印」が押されており、当館では約3,000冊の和漢書を引き継いでいます。このうち、開講当時の関白鷹司政通（たかつかさまさみち）から献上された「二十二史」には「鷹司蔵書」の朱印が、また二条家から献上の「漢書評林」には二条家の蔵書印「銅駝蔵書」の印が押印されており、伝来の経緯をたどることができます。

この他にも、版心や序跋、奥書など古典籍特有の情報も電子目録には入力されていますので、様々な検索や利用が可能です。

今後は、残された旧分類「和」の約25,000冊について、これらの稀少な図書がより有効活用できるよう電子目録化を進めることにしています。

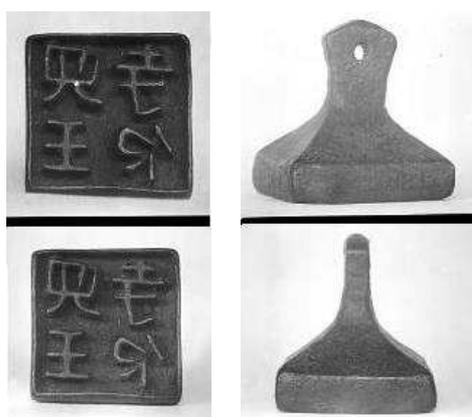
「四天王寺印」—矢野家写真資料から—

当館所蔵の写真資料の中に「矢野家写真資料」という資料があり、矢野豊次郎撮影のものを中心に、264点を公開しています。その中に「天王寺印」と称する写真資料があります。印章自体は付属文書とともに国の重要文化財に指定され、京都国立博物館が所蔵しています。

この「天王寺印」の資料については、すでに当館のメールマガジン（以降「メルマガ」）97号（平成22年6月16日）で簡単に紹介されていますが、改めて取り上げてみます。矢野家写真資料の中には、この印章の写真は全部で3枚存在しており、この印章・付属文書と入っていた厨子を集合した写真（写真1）、印面のみ写真（写真2）、鈕（ちゅう、印章上部のつまみ部分）の部分を写したもの（写真3）に分かれています。



(写真1)



(写真2)

(写真3)

まず、印面からみると、4文字に見えますが、最初の文字が「四」と「天」の組文字になっていることがわかります。したがって、この印文は「四天王寺印」と読むべきですが、重要文化財に指定されたときはそこまで読めておらず、「重要文化財『四王寺印』」とされています。

メルマガでは、出羽国の秋田城（あきたのき）\*にあった四天王寺で使用された印章と紹介されています。それは間違いなのですが、江戸時代になり、この四天王寺が京都の聖護院の塔頭、積善院の末寺になった関係から、印章やそれに関するお祭りも積善院で行われるようになり、1960年くらいまで続いていました。現在はもう行われていません。

(\*秋田城：奈良時代頃、出羽国に設置された城柵)

この印章は、鈕の写っている写真から見ると、弧鈕有孔（こちゅうゆうこう）か丁鈕有孔（ていちゅうゆうこう）と呼ばれる型式の銅印になります。こういった印章は9世紀頃に使われていたものに多いので、この印章も9世紀頃の casting と思われる。

さて、この印章が積善院に移されてから、京都で「秋田祭」と呼ばれる祭が行われていました。その時の作法を伝えたものが付属の5種類の古文書で、写真1に写っているものです。いずれも江戸時代に積善院の門跡が記述したものです。

この祭は正月元日から16日まで行われ、この厨子を開けてお経を読み、この印章の由来を述べるといったもので、この印章自体が本尊というか、ご神体というか、祭られる対象となったものです。このような祭を一般に「印鑰祭（いんやくさい）」と呼んでいます。印鑰祭自体はいろいろな地域にもありますが、仏事として行われる祭はこの積善院の秋田祭が大変有名なものであったようです。

この文書では、聖徳太子がこの印章を百濟から持ち来たって始めた祭となっています。もちろん、最初に行われた秋田の四天王寺が8世紀以降の建立であり、印章自体も9世紀頃のものと考えられますので、この伝承は史実ではありません。しかし、そのように信仰されて伝承されてきたことが重要なのです。聖徳太子信仰が盛んになる中世になって、すでに使用されなくなった印章を用いて、秋田の四天王寺で行われるようになったものと推定されるのですが、聖徳太子信仰の元で伝わってきたものとして注目すべき印章です。

<参考文献>

難波田徹「『四王寺印』と印鑰祭」（『学叢』第3号 京都国立博物館）1981

『日本古代印集成』 国立歴史民俗博物館 1998 土橋 誠「印章の持つ呪術的性格について」

（『朱雀』第13号 京都府京都市文化博物館）2001 土橋 誠「積善院『秋田祭（印鑰祭）』に関する一考察」（『琵琶湖と地域文化』 林弘通先生

退任記念論集刊行会）2011



## 最近の収集資料から（平成23年12月～平成24年2月）



### ◆図書資料

#### <京都>

**伏見稲荷大社御鎮座千三百年史** 伏見稲荷大社御鎮座千三百年史調査執筆委員会編 伏見稲荷大社 2011 24,566,17p 図版16p

**醍醐寺の歴史と文化財** 永村真編 勉誠出版 2011 6,330p

**京都古地図めぐり** 古地図でながめる京都の歴史 伊東宗裕著 長宗繁一編集 京都創文社 2011 48p 寄贈

**ふるさと紀行 1** ほのぼの京丹波 印内村物語 藤田克己著 ウインかもがわ かもがわ出版（発売） 2011 134p 寄贈

**花のおきて** 碓井玉輪[著] [碓井小三郎] 1894 1冊

**丹波の祭礼と風流** 第27回特別展 亀岡市文化資料館編刊 2011 32p

**京都まちとみどり写真コンクール入選作品集** 第26回（平成22年度） 京都府都市計画協会・京都市都市緑化協会編刊 2011 15p

**京阪電気鉄道** 広岡友紀著 毎日新聞社 2011 180p（日本の私鉄）

**西本願寺荘厳の美** 井上博道撮影 西本願寺協力 世界文化社 2011 113p（家庭画報特選）

**松尾大社の神影** 伊東史朗編 松尾大社 2011 95p 寄贈

**京都のモダンデザインと近代の縞・緋** 京都工芸繊維大学美術工芸資料館[編]刊 [2011] 14p

#### <人文>

**情報化白書** 2012 激動の時代の情報化 日本情報経済社会推進協会編 翔泳社 2011 25,298p

**冷泉家時雨亭叢書** 別巻2 冷泉家時雨亭文庫編 朝日新聞社 2012 701p（翻刻明月記1 [藤原定家著]）

**全国学校総覧** 2012年版 全国学校データ研究所編 原書房 2011 1150p

**図説ことばあそび遊辞苑** 荻生待也編著 遊子館 2007 390p

**古典基礎語辞典** 大野晋編 角川学芸出版 2011 14,1409p

**図書館空間のデザイン** デジタル化社会の知の蓄積 益子一彦著 丸善出版 2011 7,272p 寄贈

**公文書の世界** 国立公文書館創立40周年記念貴重資料展2 [国立公文書館編刊] [2011] 30p 寄贈

**園城寺文書** 第3～7巻 園城寺編 講談社・園城寺 2000～2004 5冊 寄贈

**真宗教団の地域と歴史** 草野顕之著 清文堂出版 2010 7,290p

**城下町時代MAP** 上方編 新創社編 PHP研究所 2011 89p

**歴史資料の保存と地方史研究** 地方史研究協議会編 岩田書院 2009 194p

**古代・中世遺跡と歴史地理学** 金田章裕著 吉川弘文館 2011 9,239,4p

**武門の絆** 徳川将軍家と井伊家 彦根城博物館編刊 2011 104p 寄贈

**藤堂藩山崎戦争始末** 伊賀古文献刊行会編 清文堂出版 2008 366p（清文堂史料叢書）

書陵部紀要所収陵墓関係論文集 [正] 続 3~7  
宮内庁書陵部陵墓課編 学生社 1980~2010 7冊

法然と親鸞ゆかりの名宝 法然上人八百回忌・  
親鸞聖人七百五十回忌 東京国立博物館[ほか]  
編 NHK 2011 367,15p 寄贈

細川家の至宝 珠玉の永青文庫コレクション  
東京国立博物館[ほか]編 NHK 2010  
432,21p 寄贈

装演史 渡邊明義[ほか]著 国宝修理装演師連  
盟編刊 2011 199p 寄贈

二千年の日本絵画史 宮島新一著 青史出版  
2011 7,356p

酒井抱一と江戸琳派の全貌 酒井抱一展開催実行  
委員会企画・監修 求龍堂 2011 505p 寄贈

雁金屋御画帳の研究 小西家伝来尾形光琳関係  
資料にみる小袖文様 塚本瑞代著 中央公論美  
術出版 2011 432p

\*中央アジア古代仏堂壁画 オーレル・スタイ  
ン発掘 F.H.アンドリュース編・解説 臨川  
書店 2009 図版32枚 寄贈

\*法隆寺金堂壁画 ガラス乾板から甦った白鳳の  
美 「法隆寺金堂壁画」刊行会編 岩波書店  
2011 254p 寄贈

\*法隆寺金堂壁画選 原寸大コロタイプ印刷に  
よる 「法隆寺金堂壁画」刊行会編 岩波書店  
2011 7枚 寄贈

\*源氏絵集成 研究篇・図版篇 佐野みどり監  
修・編著 藝華書院 2011 2冊 寄贈

\*在外日本重要絵巻集成 研究編・影印編 辻英  
子編著 笠間書院 2011 2冊 寄贈

\*狩野一信五百羅漢図 狩野一信[画] 安村敏  
信・山下祐二監修 小学館 2011 317p 寄贈

\*狩野一信五百羅漢図 作品解説 狩野一信[画] 安  
村敏信・山下祐二監修 小学館 2011 95p 寄贈

\*田能村竹田基本画譜 図版篇・解説篇 田能村  
竹田[画] 宗像健一編著 思文閣出版 2011 2  
冊 寄贈

\*サクラ図譜 川崎哲也画 大場秀章編 アボッ  
ク社 2010 222p 寄贈

\*二〇〇〇年紀和紙總鑑 日本の心 1~12  
二〇〇〇年紀和紙委員会[編]刊 2006~2011 12  
冊 寄贈

\*叢書・近代日本のデザイン 10~17 森仁史監  
修 ゆまに書房 2008 8冊 寄贈

\*印の資料は、財団法人京都高等学校から御寄贈  
いただきました。

#### 〈官庁〉

抽出速報集計結果 平成22年国勢調査 総務省  
統計局編刊 2011 745p 寄贈

住民基本台帳人口要覧 平成23年版 国土地理  
協会編刊 2011 28,494p 寄贈

労働力調査年報 平成22年 総務省統計局編  
刊 2011 673p 寄贈

国民の福祉の動向 2011/2012 厚生労働統計  
協会編刊 2011 320p

国民衛生の動向 2011/2012 厚生労働統計協  
会編刊 2011 499p

港湾統計〈年報〉 平成21年 国土交通省総合  
政策局情報政策本部編刊 [2011] 929p 寄贈

介護保険制度の実施状況 平成22年度 京都府  
健康福祉部高齢者支援課[編]刊 2011 108p

近代都市の衛生環境 京都編17~30 衛生・保  
健1~14 近現代資料刊行会編刊 2011 14冊

京都府立林業大学校 平成24年開校 京都府立  
林業大学校[編]刊 [2011] 1枚

**第1次京のみどり推進プラン** 「京都市緑の基本計画」実施計画 京都市建設局水と緑環境部緑政課[編]刊 2011 58p 寄贈

**宇治市第5次総合計画** 宇治市政策推進課編 宇治市 2011 191p 寄贈

**伊根町揺れやすさマップ** 伊根町地域の危険度マップ 伊根町[編]刊 [2011] 1枚 寄贈

### ■文書資料（新しく公開する資料）

**山科音羽村関係文書** 京都市山科区音羽村の文書を中心とした資料。主なものに、享保17年（1732）に東本願寺境内にあった長福寺を山科に移転するために行った替地の一件、山科郷土について天保14年（1843）に記された「御家人名前帳」「由緒書」、音羽村の「年貢免状」「皆済目録」、安永4年（1775）の「畑高帳（年貢帳）」がある。ほかに頼母子講の仕法書、山科の産物である菜種や竹を抵当にしたことがわかる文書等。享保元年（1716）～安政2年（1855） 57点。寄贈

**山添家文書** 京都市中京区三条寺町西入ル弁慶石町の山添家の資料。浄土真宗の教えに関わる説話集や法話等、庶民信仰の様子が窺われる。ほかに御幸町通御池上ル亀屋町の文化12年（1815）「宗門人別改帳」がある。宝暦8年（1758）～昭和5年（1930） 25点。寄贈

**荒木田家文書** 北野社目代（北野社社領の管理実務を担当する役目）を代々務めた荒木田家の文書。慶長元年（1596）から幕末期までの「補任状」および令旨、幕末頃と思われる「目代心得々々」、荒木田家の家屋敷の造作のための絵図、上地で官

林となったと思われる竹藪の管理・運用、和歌詠草等。慶長元年（1596）～明治34年（1901）。 95点。

**西八条家旧蔵文書・甲** 大通寺実法院の住持で明治時代初期に六孫王社の神職を勤めた西八条家に伝来した資料。大通寺は葛野郡西八条村（現京都市南区八条町）にあり\*、遍照心院とも称し源氏ゆかりの寺として保護されてきた。六孫王社は源経基を祭神とする神社で、明治の神仏分離までは大通寺の鎮守社であった。したがって大通寺・六孫王社、両方に関わった内容である。文禄3年（1594）「年貢納帳」、慶長16年（1613）「算用状」、元和7年（1621）「年貢納帳」など桃山時代から江戸時代初期の資料が含まれている。大通寺周辺の西八条村の「水帳（検地帳）」など地域の基本的な情報、由緒や事件を記録した「秘記」、修復のための勸化や幕府への請願の一件、幕府への様々な願書、寺の儀式や定、神仏分離後の神官の対応を記した諸覚など多様な情報を含む。文禄3年（1594）～大正期。 121点。

\*現在の所在地同区西九条比永城町には東海道線の移設工事により明治45年に移転した。

**西八条家旧蔵文書・乙** 同じく西八条家に伝来したと思われる資料。文久年間、六孫王社修復のため江戸の寺社奉行に面会した時の江戸滞留の記録。陳情のいきさつや江戸の様子が記された「日記」5冊及びその時の「金銭勘定帳」2冊。文久元年（1861）～元治元年（1864） 7点。

**西八条家旧蔵文書・丙** 同じく西八条家に伝来したと思われる資料。京都所司代牧野河内守英成の寄附により作られた六孫王社御廟拜所にかかわる記録。享保10年（1725）～19年（1734） 1点。

## 新資料館と国際京都学センター

当館は、昭和38年11月に開設されて以来、今年で49年目を迎えます。

この間に、建物自体の老朽化により、あちこち「がた」が来ており、例えば、講堂の屋上に雨漏り防止のためのテントシートを職員総出で張るなど、あまり経費をかけないよう工夫しながら、様々な修繕を実施しています。一方で、設備の

面からも、講堂には冷房機能がなく、座席も痛みが激しいなど、施設全体が、今日求められる水準や機能を満たしているとは言い難いものになっています。

こうした状況から、隣接する府立植物園なども合わせた「北山文化環境ゾーン」整備事業の一環として建て替えることが決定され、昨年、コン

ペティション方式による設計競技が行われました。最終選考の結果、「京都の町のたたずまいをよく読み込み、繊細で柔らかい表情を持つ外観にまとめた」ことが評価され、建築家の飯田善彦氏（飯田善彦建築工房代表、横浜国立大大学院教授）の作品が最優秀に選ばれました。

新館は、地上4階地下2階建て、延べ床面積約24,000平方メートル（隣接する京都コンサートホールを南に少し隔てた現府立大学農場のところに新設）。資料館の約60万点にのぼる文献や各種資料を収蔵・保存・提供するほか、府立大学文学部研究室、附属図書館も一体整備されます。この他、内外の研究者・研究機関の京都に関する研究をコーディネートしながら、当館所蔵資料との対話を通じて、京都の知恵や価値観を国内外に広く発信する「国際京都学センター」が設立されることになっています。

現在、平成27年度の開館を目指し、利用者の皆様が快適・円滑に利用でき、また、使い勝手がよい施設となるよう、セキュリティ対策なども含め、様々な観点から、基本設計の詰めに向け、設計者と協議・調整を行っているところです。



新施設（コンペのイメージ写真）

今回、整備予定の主な施設・設備をご紹介します（規模は、現時点で検討中のものです。）

#### ◇ 総合資料館関係の主な施設

- ① 当館文献資料と附属図書館の蔵書を併せてご利用いただけるよう配慮したワンフロアの「閲覧スペース」
- ② 「国宝・重文閲覧室」や「グループ閲覧室」など、それぞれの閲覧利用に着目した、閲覧・開架図書スペース
- ③ 「国宝・重要文化財収蔵庫」、「写真関係収蔵庫」など、各種資料ごとに適切な保存環境・設備を備えた各種収蔵庫

- ④ 所蔵資料などを常時展示する「常設展示室」と、特定テーマに基づく企画展示のための「企画展示室」

#### ◇ 国際京都学センター関係の施設

- ① 国際京都学センターの公開講座をはじめ、各種シンポジウムなど多様な催しに対応できる500名程度収容可能な「公開講座用ホール」
- ② 中規模（200名程度）の講座や各種セミナーなど多様な催しを行う「セミナー室」（分割利用も可）
- ③ 研究者と学生や府民の方々など多様な皆様を対象とした小規模の「共同研究・演習室」（分割利用も可）
- ④ 外国語の観光ガイドブックをはじめ、図書やパンフレット、各種映像など、京都を国際的に発信するコーナー

こうした施設整備に伴い、次の取組の充実等が可能になります。

- ① 府立大学の知見を活かした所蔵資料のさらなる発信・提供
- ② 京都に関する専門研究の振興と現代の諸課題解決に向けた「京都の知恵・価値観」の国内外への発信
- ③ 「セミナー室」や「共同研究・演習室」を活用した各種自主講座、外部講師による京都に関する様々な講座など
- ④ 「ホール」を活用して、世界に京都を発信する大規模な国際シンポジウムなど
- ⑤ 常設展示や企画展示を通じた、当館所蔵資料等のより一層の紹介など

当館といたしましては、府立大学と共同で国際京都学センターのキックオフ事業の位置づけの下、「国際シンポジウム」の平成24年度中の開催を予定するなど、新施設のメリットを最大限活かし、新たな施設整備にふさわしい機能・役割を発揮できるよう、様々な取組の実施に向け検討を重ね、できるものから鋭意実行に移していくこととしています。皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

## ◎平成24年度普及事業計画

資料館では、平成24年度の展覧会等を下記のとおり実施する予定としております。

内容等の詳細は未定ですが、決定次第ホームページ、メールマガジン等でお知らせします。

<夏>

- ・総合資料館収蔵品展
- ・寺子屋講座

<秋>

- ・平清盛関連企画展
- ・地域学関連講座
- ・寺子屋講座

<秋～冬>

- ・京都学へのいざない講座（月1回程度）

<冬>

- ・古文書入門教室

<時期未定>

- ・東寺百合文書展

なお、蔵書点検を5月中旬、2週間程度の期間で予定しております。この間は臨時休館となりますのでご了承ください。日程は決まり次第お知らせします。

## 友の会事務局から

友の会では、随時入会申込みを受け付けています。多数の方のご入会をお待ちしております。

（年会費2,000円）

問合せ先：友の会事務局

（当館庶務課内 TEL 075-723-4831）

\*主な活動（予定）

- ・見学会（年1回秋頃、要参加費）
- ・現地講座（年1回春頃、要参加費）
- ・「総合資料館だより」の配布（年4回）
- ・資料館主催展覧会の会員向け展示解説
- ・京都文化博物館、池大雅美術館の入場料割引
- ・総合資料館府民講座の開催（資料館と共催）

## 古文書相談のご案内

○古文書の内容や解読についての相談を郵送にて受け付けております。

○地域に残る資料の解読・整理取り扱いなどに関するご要望があれば、職員が出張して行います。

いずれも詳細は当館歴史資料課（TEL 075-723-4834）までお問合せください。

## 日誌(平成23年12月～24年2月)

～12.8（日）展覧会「古典に学び、古典に遊ぶ」

12.4（日）展覧会関連シンポジウム「昔の本にみる『笑い』と『スキャンダル』」

2.25（土）～3.25（日）

総合資料館収蔵品展

## 利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、  
毎月第2水曜日、資料整理期、  
年末年始（12月28日～1月4日）

〔4月～6月の休館日〕

4月11日（水）、30日（月・振）

5月3日（木・祝）、4日（金・祝）、

5日（土・祝）、9日（水）

6月13日（水）

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車  
市バス④、⑧・北山駅下車  
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会（振替 01030-2-11991） TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。